

(提案12)

日本学術会議主催学術フォーラム「世界のオープンアクセス政策と日本：研究と学術コミュニケーションへの影響」

- 1 開催時期：平成26年3月13日（木）13:00～17:30
- 2 開催場所 日本学術会議講堂
- 3 共 催： 文部科学省、独立行政法人日本学術振興会、独立行政法人科学技術振興機構
- 4 協 賛： Uni Bio Press
- 5 開催趣旨

研究成果として論文を出版し、新しい知見や学識を世に残し、人類の知識として共有するという学問の有り様は、21世紀に入って急速にその姿を変えつつある。

研究資金の使い方の中に、論文をオープンアクセス出版することを求め、また、その成果として論文情報が産学官で自在に活用することができ、社会に還元しようとする国策が、例えば Horizon2020 に代表されるように欧米で活発に議論されている。

研究が学際化し、人と情報がグローバルなスケールで自在に動く今、日本にも欧米の政策の影響が現れ始めている。論文出版を、研究費を使ってオープンアクセス出版（無料で閲覧出来るように）することにとどまらず、誰でも論文著作権を履行できるようにする利活用の仕組み（クリエイティブコモンズ）も、日本に漂着している。

我が国では、日本学術会議の提言を受け、我が国発の国際的なリーディングジャーナル育成プロジェクトが強力に推進されている。上記のこのような学問を取り巻く新たな環境が、研究現場やコミュニケーションの場面、そしてジャーナル育成プロジェクトに及ぼす影響と対策を多面的に科学者が議論する場として本シンポジウムを企画する。

- 6 次第（予定を含む。）

司会 北里 洋（日本学術会議第三部会員、海洋研究開発機構・海洋極限環境生物圏領域領域長）

(1) 13:00～13:30 挨拶・基調講演

- ・吉田 大輔 (文部科学省研究振興局長)
「日本の学術政策」
- ・大西 隆 (日本学術会議会長・第三部会員)
「日本学術会議からの提言」

(2) 13:30～14:40 講演

- ・安西祐一郎 (日本学術会議連携会員、独立行政法人日本学術振興会理事長)
「オープンアクセス影響下にある新たな学術誌刊行支援」
- ・中村 道治 (独立行政法人科学技術振興機構理事長)
「日本の学術政策とオープンアクセス政策を活かした将来観」
- ・Dr. Ralf Schimmer (Max Planck Digital Library デイレクター)
「ドイツ・欧州の学術政策とオープンアクセス化による影響」

(14:40 休憩)

(3) 14:50～17:30 パネルディスカッション

コーディネーター

浅島 誠 (日本学術会議連携会員、日本学術会議科学者委員会学術誌
問題検討分科会委員長)

①各界からの主張

- ・下間 康行 (文科省研究振興局情報課)
「研究振興の将来を築く学術政策」
- ・植田 憲一 (日本学術会議連携会員、電通大レーザー新世代研究センタ
ー特任教授)
「研究者から見る日本の受信・発信の現状と、学術政策への期待」
- ・玉尾 皓平 (日本学術会議連携会員、理化学研究所研究顧問、日本化学
会会長)
「学会からみる国際学術誌発信の実情と、今こそ必要な学術政策への提案」
- ・江夏 由樹 (一橋大学経済学研究科教授・図書館長)
「図書館における学術誌受信の課題と、オープンアクセス潮流による影響」
- ・林 和弘 (日本学術会議特任連携会員、文部科学省科学技術政策研究
所科学技術動向研究センター上席研究官)
「OA の持つ可能性と日本の学術」
- ・永井 裕子 (日本学術会議特任連携会員、公益社団法人日本動物学会事
務局長)
「人文社会系に関するOA化」
- ・谷藤 幹子 (日本学術会議特任連携会員、独立行政法人物質・材料研究
機構科学情報室室長)

「日本の学術情報流通への3つの提言」

②討論

- ・ 大西 隆（日本学術会議会長・第三部会員）
- ・ 中村 道治（独立行政法人科学技術振興機構理事長）
- ・ 安西祐一郎（日本学術会議連携会員、独立行政法人日本学術振興会理事長）
- ・ 下間 康行（文科省研究振興局情報課）
- ・ 植田 憲一（日本学術会議連携会員、電通大レーザー新世代研究センター特任教授）
- ・ 玉尾 皓平（日本学術会議連携会員、理化学研究所研究顧問、日本化学会会長）
- ・ 江夏 由樹（一橋大学経済学研究科教授・図書館長）
- ・ Dr. Ralf Schimmer（Max Planck Digital Library デイレクター）
- ・ 谷藤 幹子（日本学術会議特任連携会員、独立行政法人物質・材料研究機構科学情報室室長）
- ・ 永井 裕子（日本学術会議特任連携会員、公益社団法人日本動物学会事務局長）
- ・ 林 和弘（日本学術会議特任連携会員、文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター上席研究官）

③会場との意見交換

(提案 1 3)

公開シンポジウム「福島原発事故による放射能汚染と森林・木材 Part II」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会林学分科会
2. 共 催：森林・木材・環境アカデミー、認定 NPO 法人才の木
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 26 年 1 月 24 日(金) 13：30～17：35
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

東京電力福島第 1 原子力発電所の事故から放出された放射性物質は、福島から北関東の山間部に広く拡散し、地域の森林、林業、木材関連産業に大きな影響を及ぼしている。事故から二年半が経過し、大学や研究機関により森林生態系や木材、林産物への影響の調査が進み、実態が把握されつつあり、同時に生活圏への除染等の対応が進められている。

一方、放射性セシウム 137 の半減期は 30 年と長いため、長期的な取り組みの検討が必要である。とくに森林は広大な面積を占め、その除染には莫大な経費がかかるので、生活圏の除染に比べて優先順位が低い、今後流域を含め長期的な対策が必要となる。本シンポジウムは、25 年 11 月 7 日開催の公開シンポジウムに続き、緊急に求められる対策やその長期展望について最新の科学的知見をもとに、多角的な視点から議論する。

8. 次 第：

13:30 開会挨拶

川井 秀一*（日本学術会議第二部会員、京都大学大学院総合生存学館特定教授）

13:40 講演会

・汚染の実態と森林・木材の長期モニタリング（仮）

高橋 正通（独立行政法人森林総合研究所研究コーディネータ）

- ・森林及び土壌の放射能汚染とその移行の実態（仮）
大手 信人（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）
- ・地域林業の原発被災と担い手問題
早尻 正宏（山形大学農学部教授）
- ・野生生物を調べてわかること
石田 健（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

（15:40 休憩 ）

15:55 総合討論

コーディネータ

田中 和博*（日本学術会議連携会員、京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授）

17:25 閉会挨拶

鈴木 雅一*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会）

(提案 1 4)

公開シンポジウム「International Workshop on Future Earth in Asia」 の開催について

1. 主 催：日本学術会議フューチャー・アースの推進に関する委員会、環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP・DIVERSITAS 合同分科会、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所
2. 日 時：平成 26 年 2 月 4 日（火） 9:00～17:00
2 月 5 日（水） 9:00～17:00
2 月 6 日（木） 13:00～15:00
3. 場 所：京都ロイヤルホテル&スパ（京都市）、
大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所
（京都市）
4. 分科会等：開催予定あり
5. 開催趣旨：

国連持続可能な開発会議（RI0+20）で打ち出された 10 ヶ年の国際的研究計画であるフューチャー・アースは、それぞれの社会が、グローバルな環境の変化がもたらした挑戦的課題に向き合い、グローバルな持続可能性に移行する機会を明らかにすることに不可欠な知識を提供するものである。

本シンポジウムは、アジアにおけるフューチャー・アースの役割や課題についてステーク・ホルダーと協働すること、ステーク・ホルダーとの協働のために、アジアにおけるフューチャー・アース研究プロジェクトの初期デザインを作ること、を目的として、基調講演や交流セッションを開催するものである。これは、様々なステーク・ホルダーとの協働に向けてアジア的な志向を組み入れた研究等を企画していくことを課題とする、フューチャー・アースの推進に関する委員会の趣旨と重なるものである。

本シンポジウムにおける成果により、今後予定されるフューチャー・アースの推進に係る提言の取りまとめに向けた議論にも大きく寄与することが期待される。

6. 次 第：

2月4日（火）

9:00～ 9:20 【開会あいさつ】

Yuan Tseh Lee (President, ICSU)

9:20～12:00 【基調講演】

“Development”

Bindu N. Lohani (Vice President, Asia Development Bank)

“Economic integration”

杉原 薫*（日本学術会議第一部会員、政策研究大学院大
学教授）

“Urbanization and social transition”

Bai Xuemei (Professor, Australia National University /
Future Earth Science Committee)

“Equity and inclusion”

Sarah cook (Director, United Nations Research Institute
for Social Development)

13:00～17:00 【交流セッション】

“What are the sustainability implications of the trends
to 2042?”

2月5日（水）

9:00～ 9:30 【開会】

“Co-design in Future Earth”

Robert Watson (Chair, Future Earth interim Engagement
Committee)

9:30～12:10 【発表】

“Cities at Risk project”

Hassa Virji (Executive Director, International START
Secretariat)

“ (title-undecided) ”

安岡 善文（日本学術会議連携会員、情報システム研究機
構監事）

ほか

13:00～16:40 【交流セッション】

“Principles & Practices for Co-design in Future
Earth in Asia”

16:40～17:00 【閉会挨拶】

安成 哲三*（日本学術会議第三部会員、総合地球環

境学研究所所長)

2月6日(木)

13:00～15:00【公開セミナー】

登壇者等調整中

7. 関係部の承認の有無：第三部承認

(＊印の講演者等は、主催委員会委員)

(提案 15)

公開シンポジウム「第5回科学技術人材育成シンポジウム 科学技術リテラシーの向上に向けて ～若者の理科離れは改善されたか～」の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会、機械工学委員会
日本工学会科学技術人材育成コンソーシアム
2. 後 援：文部科学省, 経済産業省, 国土交通省, 独立行政法人科学技術振興機構, 日本経済団体連合会, 日本経済新聞社（いずれも申請予定）
3. 日 時：平成26年2月8日（土） 13:00～17:00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：無

6. 趣 旨：

科学技術立国として発展してきた我が国にとって若者の理科離れ・技術離れが深刻な問題として認識されて以来、多方面で様々な取り組みが行われ、この問題の解決には若年層に限らず広く国民の科学技術リテラシーの向上が重要と認識されつつある。今回のシンポジウムでは、「科学技術リテラシーの向上に向けて」のテーマの下に、日本工学会柘植綾夫会長による基調講演「科学・技術を担う将来世代の育成方策」に続いて、小学校から大学までのそれぞれの課程における理科離れの現状と取り組み、およびその効果について講演いただく。その後、パネル討論によって、総合的な観点から科学技術リテラシー向上についての課題と今後の取り組みについて討論を行う。

7. 次 第

総合司会：廣瀬 壮一（東京工業大学教授、コンソーシアム幹事）

13:00～13:10 開会挨拶

有信 睦弘*（日本学術会議第三部会員、東京大学監事、コンソーシアム代表）

基調講演

13:10～13:40 「科学・技術を担う将来世代の育成方策～教育と科学・技術イノベーションの一体的振興のすすめ～」

柘植 綾夫*（日本学術会議連携会員、日本工学会会長、コンソーシアム代表）

講演

13:40～14:10 「子どもたちの学力の現状－PISA等の国際調査結果から－」
猿田 祐嗣（國學院大学人間開発学部初等教育学科教授）

14:10～14:40 「スーパーサイエンスハイスクールの現状と課題」
植木 勉（独立行政法人科学技術振興機構理数学習支援センター副センター長）

14:40～15:10 「大学教育の参照基準の目指す人材育成」
北原 和夫（日本学術会議特任連携会員、東京理科大学大学院科学教育研究科教授）

15:10～15:40 「若者の理科離れは改善されたか(仮題)」
横山晋一郎（日本経済新聞社編集委員）

15:40～15:55 （休 憩）

パネル討論

15:55～16:55 「科学技術リテラシー向上についての課題と今後の取り組み」
コーディネータ：松瀬 貢規（明治大学工学部教授、公益社団法人日本工学会フェロー、コンソーシアム副代表）

パネリスト： 柘植綾夫、猿田祐嗣、植木 勉、北原和夫、横山晋一郎の各講演者と有信睦弘コンソーシアム代表

16:55～17:00 閉会挨拶
依田 照彦*（日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院創造理工学部教授、コンソーシアム副代表）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（*印の講演者等は、主催委員会委員）

(提案16)

公開シンポジウム「法の世界とジェンダー ―司法と立法を変えることはできるのか?」の開催について

1. 主 催：日本学術会議法学委員会ジェンダー法分科会、日本学術会議社会学委員会複合領域ジェンダー分科会、日本学術会議社会学委員会ジェンダー研究分科会、日本学術会議史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会
2. 後 援：ジェンダー法学会、日本社会保障法学会、日本法政学会、民主主義科学者協会法律部会、ジェンダー史学会、日本人権教育研究学会、日本家族〈社会と法〉学会、日本法社会学会、明治大学法科大学院ジェンダー法センター、奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター
3. 日 時：平成26年2月15日（土）13時00分～17時00分
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：開催予定有り
6. 開催趣旨：

司法改革にジェンダー視点が欠如しているという問題意識の下に、今世紀に入ってから、法の世界における性差別と人権侵害をなくすためのさまざまな試みが続けられてきた。法学分野の学会でも、研究者と実務家が個々の経験的営みを交流しつつ、ジェンダーの視点にたつ理論的な研究を深めてきた。いくつかの法科大学院では、ジェンダーに敏感な法曹を育てるための努力が重ねられてきており、実務の分野でも、ジェンダー平等を託す裁判への取組が司法の場で新しい展開をとげるという例がみられる。弁護士会の男女共同参画への地道な取組みも、この10年あまりの間に、法の世界に確実な変化をもたらしたといえよう。しかし一方、法の世界のジェンダー主流化という観点からみると、他の国に比較して日本では、その進展がきわめて遅いと、常に批判されている。果たして、日本の司法や立法は、ジェンダー主流化という要請にどこまで応えられているのだろうか。ジェンダー関連の法改正、法学専門教育にジェンダー視点を導入する試みは、いったいどこまで実を結びつつあるのか。司法におけるジェンダー・バイアスに歯止めをかけることは、果たして可能なのだろうか。このシンポジウムでは、ほぼ10年の変化を分析しながら、法の世界をめぐる現状をジェンダー視点から検証したい。

7. 次 第：

司 会

辻村みよ子*（日本学術会議第一部会員、明治大学法科大学院教授）

古橋エツ子*（日本学術会議連携会員、花園大学名誉教授）

13:00～13:05 開会あいさつ・趣旨説明

浅倉むつ子*（日本学術会議第一部会員、早稲田大学大学院法務研究科教授）

13:05～13:25 報告1 「法の世界におけるジェンダー主流化」（20分）

後藤 弘子*（日本学術会議第一部会員・幹事、千葉大学大学院専門法務研究科教授）

13:25～13:45 報告2 「女性に対する暴力」

戒能 民江*（日本学術会議第一部会員、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科客員教授）

13:45～14:05 報告3 「婚外子差別の裁判」

榊原富士子（弁護士、早稲田大学教授）

14:05～14:25 報告4 「法科大学院におけるジェンダー法講義の経験から」

角田由紀子（日本学術会議特任連携会員、弁護士）

14:25～14:55 報告5 「法学教育アンケートの集計」

二宮 周平*（日本学術会議連携会員、立命館大学法学部教授）

三成 美保*（日本学術会議連携会員、奈良女子大学教授）

14:55～15:10 休憩

15:10～15:25 コメント

上野千鶴子*（日本学術会議第一部会員、東京大学名誉教授）

15:25～15:50 コメント

井上 達夫*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授）

15:50～17:00 討論

閉会挨拶

井野瀬久美恵*（日本学術会議第一部会員、甲南大学文学部教授・文学部長）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者等は、主催分科会委員）

(提案 17)

公開シンポジウム「第 7 回情報学シンポジウム『MOOC の拡大：高等教育の変容を促す大きな流れ』」の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会

2. 共 催：なし

3. 後 援：情報処理学会（予定）、電子情報通信学会（予定）

4. 日 時：平成 26 年 2 月 26 日（水）13:00～17:40

5. 場 所：日本学術会議 講堂

6. 分科会の開催 開催予定

7. 開催趣旨：

本シンポジウムは、日本学術会議の第 22 期における最終の情報学シンポジウムである。そこで、最初に、情報通信分野に関連する文部科学省施策の最近動向の紹介、さらに国の科学技術政策の推進に関わる情報学分野への期待・要望等に関する講演をいただき、現況における情報学分野の位置付けを明確にし、第 23 期の情報学委員会の審議活動に繋げることを考えている。

その後に、本シンポジウムでは高度な学術情報基盤システムをベースとする MOOC（大規模公開オンライン講座）の活動に関する議論を展開したい。MOOC は、2012 年より米国を中心として主要有名大学および著名教授により開始され、世界中からの受講があり、修了者は修了証を得ることができる教育サービスとして大きく注目されている。2013 年からは欧州、アジア、豪州などのトップレベルの大学も参加する活動に広がり、参加大学、学習者ともに世界的な規模で爆発的に急増しており、全世界の受講生は 700 万人を突破したと言われている。そのような動向を踏まえて、MOOC による教育形態の大きな変化の流れ、その広がりを支える学術情報基盤システムの高度化の必要性など、さまざまな観点からの議論を展開したい。

8. 次 第：

13:00-13:05 開会挨拶

喜連川 優（日本学術会議第三部会員、大学共同利用機関法人
情報・システム研究機構国立情報学研究所所長、
情報学委員会副委員長、本シンポジウム実行委員長）

13:05-13:20 情報学委員会の最近の活動状況

西尾章治郎*（日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院情報科
学研究科教授、情報学委員会委員長）

13:20-13:45 情報通信分野に関連する文部科学省施策の最近動向

下間 康行（文部科学省研究振興局参事官（情報担当））

13:45-14:15 招待講演「科学技術政策の観点からの情報学への期待」

現在、国の科学技術政策に深く携わっておられる方に交渉中

14:15-15:10 招待講演「Reflections on the Past, Present and Future of
E-Learning: A 25-Year Journey at Stanford」

Paul Marca（Executive Director, Stanford Center for
Professional Development）

15:10-15:40 招待講演「JM00C の創設と今後の活動」

白井 克彦（日本オープンオンライン教育推進協議会（JM00C）・理
事長、放送大学学園・理事長）

15:40-16:00 休憩

16:00-17:30 パネル討論「M00C による高等教育の改革、およびそれを支える
学術情報基盤システムの高度化」

コーディネータ：

西尾章治郎*（日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院情報
科学研究科教授、情報学委員会委員長）

パネリスト：（50音順）

喜連川 優（日本学術会議第三部会員、大学共同利用機関法人
情報・システム研究機構国立情報学研究所所長、
情報学委員会副委員長、本シンポジウム実行委員長）

下間 康行（文部科学省研究振興局参事官（情報担当））

安浦 寛人（日本学術会議第三部会員、九州大学理事・副学長、
JM00C 副理事長）

他 2 名依頼中

17:30-17:40 閉会挨拶

土井美和子*（日本学術会議第三部会員、株式会社東芝研究開発
センター首席技監）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（*印の講演者等は、主催委員会委員）

(提案18)

公開シンポジウム「現代リスクマネジメントの諸相ソーシャル・リスク
マネジメントとリスク・リテラシー」の開催について

1. 主 催 日本学術会議経営学委員会、日本リスクマネジメント学会
2. 後 援 関西大学経済・政治研究所
3. 日 時 平成26年2月28日(金) 13:30～16:30
4. 場 所 日本学術会議講堂
5. 分科会の開催 開催予定

6. 開催趣旨

地域社会、個人、企業、行政が連携して、社会全体に影響を及ぼすリスクに対応するというのが、「ソーシャル・リスクマネジメント」である。この考え方に立脚して、本シンポジウムでは、地域社会の安全や子どもの安全に関連して、個人、企業、行政が果たすべき役割について探求する。同時に、共有すべきリスク・リテラシーについて考察する。

7. 次 第

総合司会：

亀井 克之 (関西大学社会安全学部教授)

13:30～13:15 開会挨拶

川本 明人* (日本学術会議第一部会員、広島修道大学商学部教授)

13:20～15:20 研究報告

川本 明人* (日本学術会議第一部会員、広島修道大学商学部教授)

亀井 克之 (関西大学社会安全学部教授)

尾久 裕紀 (立教大学現代心理学部特任教授)

岡田 朋之 (関西大学総合情報学部教授)

奈良由美子 (放送大学教養学部教授)

白田 佳子* (日本学術会議第一部会員、筑波大学ビジネスサイエンス系教授)

15:20～15:30 休憩

15:30～16:30 パネルディスカッション

亀井 克之 (関西大学社会安全学部教授)

尾久 裕紀 (立教大学現代心理学部特任教授)

岡田 朋之 (関西大学総合情報学部教授)
奈良由美子 (放送大学教養学部教授)

16:30～16:40 閉会の辞

白田 佳子* (日本学術会議第一部会員、筑波大学ビジネスサイエンス系教授)

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案 19)

公開シンポジウム「数理モデリング（数学と諸科学・産業との連携の観点から）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議数理科学委員会数学分科会

2. 共 催：日本数学会、日本応用数理学会、統計関連学会連合

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成 26 年 3 月 26 日（水）13：00 ～ 17：30

5. 場 所：日本学術会議講堂

6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

数理科学委員会では現在「数学と社会との関わり」をテーマとして、数学が社会への貢献するための大学における人材育成教育や研究のあり方について議論していた。その中でモデリングが大きなテーマとなった。モデリングは幅広いものであり、数理モデリングに限っても人文科学・社会科学、生命科学などにおけるモデリング等があるが、焦点を絞るために今回は産業、特に製造業との関わりを意識して公開シンポジウムを行う。

8. 次 第：

13:00 開会の挨拶／趣旨説明

楠岡 成雄*（日本学術会議第三部会員・数理科学委員会数学分科会
委員長、東京大学大学院数理科学研究科教授）

13:15 高田 章（旭硝子（株）中央研究所特任研究員、日本応用数理学会会長）
「数理モデリングを考える／企業の立場から」

13:45 山本 昌宏（東京大学大学院数理科学研究科教授）
「数理モデリングを考える／欧州事情」

14:15 三村 昌泰 (明治大学先端数理科学インスティテュート (MIMS) 所長)
「数理モデリングとは」

14:45 長松 昭男 (キャテック (株) 取締役社長 / 東京工業大学名誉教授)
「新しいモデリング – 電気・機械一体モデルの構築」

15:00–15:30 休憩

パネルディスカッション: 15:30–17:20

司会: 石井志保子* (日本学術会議第三部会員・数理科学委員会数学分科会
副委員長、東京大学大学院数理科学研究科教授)

萩原 一郎* (日本学術会議第三部会員・数理科学委員会数学分科会
幹事、明治大学先端数理科学インスティテュート
(MIMS) 副所長・研究知財戦略機構特任教授)

パネラー:

高田 章 (旭硝子 (株) 中央研究所特任研究員、日本応用数理学会会長)

中村振一郎 (理化学研究所中村特別研究室特別招聘研究員)

小谷 元子* (日本学術会議連携会員、東北大学教授)

中尾 充宏* (日本学術会議連携会員、佐世保工業高等専門学校校長)

樋口 知之 (統計数理研究所所長)

坪井 俊 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院数理科学研究科
教授)

山本 昌宏 (東京大学大学院数理科学研究科教授)

三村 昌泰 (明治大学先端数理科学インスティテュート (MIMS) 所長)

長松 昭男 (キャテック (株) 取締役社長、東京工業大学名誉教授)

17:20 閉会の挨拶

石井志保子* (日本学術会議第三部会員・数理科学委員会数学分科会
副委員長、東京大学大学院数理科学研究科教授)

9. 関係部の承認の有無: 第三部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案20)

日本学術会議北海道地区会議主催学術講演会「宇宙技術による“夢”の実現」の開催について

1. 主 催 日本学術会議北海道地区会議

2. 共 催 北海道大学

3. 日 時 平成26年3月13日(木) 13:30～17:35

4. 会 場 北海道大学 学術交流会館 講堂
(札幌市北区北8条西5丁目)

5. 開催趣旨

宇宙技術が人類に夢とロマンを与える「最先端の科学技術」であるとともに、我々の生活にとって不可欠な技術になっている。衛星システムによる通信、リモートセンシング、測位、天気予報などはすでに私たちの生活の基盤である。そして、さらに安全で豊かな社会の実現に向けて、この宇宙技術の研究開発は、いまも営々と進められている。本学術講演会では、現在第一線で活躍の研究者に宇宙技術研究の最前線を紹介いただき、参加者と議論することで、宇宙技術の理解を深める場とする。

6. 次 第

司会：野口 伸(日本学術会議第二部会員・日本学術会議北海道地区会議代表幹事、北海道大学大学院農学研究院教授)

13:30～13:40 挨拶
日本学術会議会長又は副会長(予定)

13:40～13:50 挨拶
山口 佳三(日本学術会議連携会員、北海道大学総長)(予定)

13:50～14:50 講演「(題目未定)」
川口淳一郎(日本学術会議第三部会員、(独)宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授)

14:50～15:40 講演「マイクロサテライトが起こす宇宙情報革命」
高橋 幸弘(北海道大学大学院理学研究院教授)

- 15:40～15:50 休憩
- 15:50～16:40 講演「地球環境監視－宇宙からの目」(仮題)
福田 徹((独)宇宙航空研究開発機構地球観測研究センターセンター長)
- 16:40～17:30 講演「(題目未定)」
齊藤 誠一(日本学術会議連携会員，北海道大学大学院水産科学研究院教授)
- 17:30～17:35 閉会の挨拶
野口 伸(日本学術会議第二部会員・日本学術会議北海道地区会議代表幹事，北海道大学大学院農学研究院教授)